

令和5年4月15日

学校法人和風会  
多摩リハビリテーション学院専門学校  
学院長 林 義巳 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 鈴木 康雄

## 学校関係者評価委員会報告

令和4年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告いたします。

### 記

#### 1. 学校関係者評価委員

委員長：鈴木康雄（医療法人社団和風会リハビリテーション部長）

委員：池田健祐（所沢リハビリテーション病院 技士長）

奥山浩太（所沢中央病院 技士長）

竹田陽介（多摩リハビリテーション病院 技士長）

加藤哲禎（老人保健施設メディケア梅の園 事務長）

高木博之（所沢リハビリテーション病院 事務長）

人見太一（杏林大学保健学部）

#### 2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会：令和5年3月16日（木）〔自己評価報告と依頼〕

第2回委員会：令和5年3月31日（金）〔メールにて各委員からの評価結果集約〕

#### 3. 学校関係者評価 結果報告

別紙のとおり

以上

令和4年度 学校関係者評価 結果

## 重点目標

テーマ：全学科定員充足、国家試験全員合格に向けて

1. 入学者の定員充足、
2. 国家試験合格率 90%、
3. 退学者の減少（退学率 5%）

## 評価基準 1：教育理念・目標

適切である

### コメント

医療法人と同グループ経営のため、医療福祉の精神が色濃く反映されている。素晴らしい理念である。ホームページで情報公開、シラバスで提示されている教員理念・目標は、明確である。ただ、3つの心得のうち「努力と辛抱」は、大切なことだが、捉え方によって敬遠されるワードだと思われる。

また、教育理念や目標を在学中に意識している学生は、どの程度いるのかと疑問もある。定期的に振り返りを行い、視覚的に提示する方法も良いのではないかと思う。

コロナ禍で保護者とのコミュニケーションが取りにくくなっている。ホームページで情報公開、シラバスに記載してあることが保護者に周知されているかも重要である。保護者に理解を深めてもらうため、オンライン交流会やウェビナー、SNS などの活用により情報伝達不足を解消できれば、さらに良いと感じた。アフターコロナ禍で、保護者との関りが戻ってくることを期待する。

## 評価基準 2：学校運営

適切である

### コメント

コロナ禍で、ICT 化が進んだ。運営情報が Web 上にて職員全体で共有できるようになり、業務の効率化が進められている。紙媒体での運用から SDGs としての取り組みも踏まえ、Web 上での閲覧への変更や各教室の Wi-Fi 環境の整備による業務の効率化など、昨年度の検討課題が改善されている点が評価できる。

ホームページへの掲載、業務報告会、Wi-Fi 設備、教員ポータルサイト等、学校運営の体制が十分に整っている。各種サービスの実施について評価できる。

SNS やウェブサイトなどのツールを活用し、現場（職員、学生、保護者）の意見を反映した検討会を開催することで、さらに良い教育環境を構築できると感じた。

## 評価基準 3：教育活動

適切である

### コメント

コロナ感染拡大により臨床での実習時間を確保することは難しかったと思われる。コロナ禍による不測の事態への対応の大変さを経験された。同様な状況になった時にどのようにして臨床経験の機会を確保していくかが課題である。災害に対応する BCP（事業継続計画）のように継続的に事業を計画していく検討もお願いしたい。

外部講師の起用等、医療法人社団和風会による協力体制が充実している。学生にも還元できる取り組みを継続していけると良い。学生には臨床を身近なものとするため、授業の一環として病院演習なども取り入れて欲しい。教員の業務負担軽減のためにも、医療法人社団和風会の職員の活用を増やすなど、授業の割当を見直す必要を感じた。

授業評価アンケートや学院の運営に関する意見など、学生からの意見を取り入れた運営を期待する。学生からの意見や評価を、この学校関係者評価委員会の議題に取り入れていくと良い。

#### 評価基準4：学生指導等

適切である

##### コメント

退学者が少ないのは、評価できる。また、学生に対する合理的配慮や心理カウンセラーの配置など評価できる。しかし、社会に出ていくうえでその後の自立支援、卒業後のフォローが難しい印象を受けた。臨床実習や就職後の臨床で、精神面での問題や悩みを多く抱えている事象が多々見られる。卒業生においても、フォローする窓口などしっかりとした体制作りをお願いしたい。

学生に対応するための設備環境は整っている。学生の基礎知識は低下する傾向にあり、結果として教師の負担がかかることが懸念される。これについてはできるだけ早期からの検討が必要である。

学生生活向上委員会や学生の生活指導については、具体的な取り組みや成果を明示することで、改善が期待できる。

学生へのタマリハ Gmail ユーザーアカウントの発行、(株)リクルートによる就職指導 Web 講習会など新たな取り組みは、今後も行ってほしい。PT は今後求人募集が減少することが懸念されるため、早期の就職活動への促しが必要である。

#### 評価基準5：特別活動等

一部改善すれば適切である

##### コメント

新型コロナウイルス感染症の対応緩和で、どのように対応していくのか検討が必要である。アフターコロナ禍で、各種行事やクラブ活動等が再開できることを期待する。

各行事での交流はとても大切だが、在校生の中には消極的な学生も少なくないと思われる。さらに、特別活動に教員が同行するには、教員の負担が大きい状態がある。以下のように、提案する。

(1) 学生の声を反映する：学生の希望や意見が反映されていないため、学生が特別活動に取り組む意欲

を持ってない可能性がある。学生の声を積極的に取り入れることで、学生が活動に参加しやすくなる可能性があると感じた。

(2) 特別活動の意義を考える：特別活動の意義が考慮されていないため、特別活動が必要なのかどうか分からない。特別活動の意義を考え、その必要性を明確にすることで、特別活動に取り組む意欲を高めることができるのではないかと考える。

(3) 教員の負担を軽減する：教員の負担を軽減するために、特別活動の企画や運営に協力する生徒や、外部の専門家を招いて特別活動を実施するなどの方法を検討して頂きたい。

#### 評価基準 6：学修成果

適切である

##### コメント

昨年度に比べ、コロナ禍であるが、学外実習の体験ができるように手配されている。

3 学科とも国家試験合格率が全国平均を上回っていることは非常に評価できる。できれば目標は100%にし、更なる向上が図れるよう対策を講じていただきたい。

留年や退学率が低減されてきていることは評価できる。各学科において退学者が最終学年で散見されるが、教員による個別対応がきちんとなされたうえでの結果である。留年や退学への対策も強化しているので、むしろ教員の負担が大きすぎることに目を配る必要がある。様々な教育指導、環境改善に取り組んでいることは評価できるが、ある程度の限界を客観的に見極め、入試の時点で成績が良好な学生に目を向けることも必要である。

留年生や国家試験不合格者に対してのフォロー体制が、学科ごとに違いがあるように感じられる。学校全体としてバックアップできる体制作りを望む。

就職活動においては、自己分析が重要と考える。学生の自己分析支援を充実させ、自己理解を深めることで、適職に就く可能性を高め、卒後のキャリア形成にも繋げてもらうことも良い。

今後リハビリスタッフは充足していき、就職率が課題になることが予測される。そのため、模擬面接はより強化していただき、面接官に印象付けられるものにするとうまいのではないかと感じる。卒業生とのつながりを大切にしていくことが重要ではないかと感じる。

#### 評価基準 7：学生支援

概ね適切である

##### コメント

経済的困難な状況に陥っている学生に対して、学びを継続できる修学支援体制が整っている。制度の詳細をより広く周知するために、掲示板やウェブサイト、SNS などを活用して情報を提供していく事が大切と感じる。学生の選定が課題になるので、より良い選定方法の検討をお願いしたい。

臨床実習など学外学習において、教員が現場に行き学生の実習状況の把握してもらい、学生や実習指

導者と関わる機会を増やしてほしい。実習地訪問や電話のやり取りだけでは連携不十分と考える。

今後、多くの海外留学生を受け入れていくためのバックアップ体制（精神面など）が十分なのか心配である。

#### 評価基準 8：教育環境

概ね適切である

##### コメント

令和 4 年度も教育環境整備備品等の教育環境の整備が継続的に行われており、評価できる。引き続き、教育環境の整備に努めてもらいたい。学生は、それらの物品の価値や用途を知らずに過ごすことも少なくない。有効に活用して頂きたい。

防災訓練、BCP など引き続き実施していただきたい。

学生からの相談が対面やメールだけでなく、オンラインによる相談ができる環境を整えられている。

図書館にて、インターネットで文献検索等ができるようになっている。

実習中の学生のフォロー・バックアップ体制作りが必要である。臨床実習指導者との情報共有ツールなど充実を望む。学科ごとに統一されていないことも課題に感じる。

国際交流を推進することで、異なる文化や価値観に触れ、グローバルな視野を持ち、より多様性が学べるのではないかと感じる。

#### 評価基準 9：学生募集

概ね適切である

##### コメント

様々な入試制度を導入され、幅広く募集が出来ている。外国人留学生入試や多くの入試体制、また減額制度の実施など、いつでも、だれでも受験できる体制は非常に評価できる。

少子化により学生数の減少は避けられない。どの学校も定員割れが問題になってきている。その中でも定員は充足している方だと思われる。インスタグラムなどの SNS の強化に加え、営業活動も活発に実施されている。

奨学金制度を活用しての取り組みは評価できるが、定員を充足させることができていない。OT・ST・介護学科の定員割れは対策を講じる必要がある。他養成校との更なる差別化を図る必要がある。

体験会や見学会などのイベントを通じて学校の魅力を伝えているが、同じ形式のイベントを繰り返すだけでは、参加者の興味を引き続けることが難しい。そのため、様々な形式のイベントを企画し、参加者の興味を引き続ける工夫が必要である。例えば、模擬授業や講演会、グループワーク、学生や卒業生の体験談を聞く、交流会などが必要である。教員の説明のみならず、関連病院現場スタッフの講話など工夫をしながら地域に根付いていけたらと思う。引き続き学生の受け入れ、募集に努めていただきたい。

評価基準 10：財務

適切である

コメント

財務諸表、監査役の意見などホームページ上に情報公開されており、理事会、評議員会において税理士より財務諸表の説明もされている。適切な財務体制で運営されている。財務報告などは複雑でわかりにくい事が多いため、財務報告の可読性を高めるため、グラフや図表を使うなど、視覚的にわかりやすくする方法があっても良いと感じる。

物価高騰により学校運営が更に困難になることが推測できる。授業料改定などの対策がとられているが、学生募集に影響がないか憂慮される。コスト削減の対策が必要である。経営状態を職員全体で共有するため、学科会議などで財務状況を伝える機会が必要と考える。

評価基準 11：法令等の遵守

適切である

コメント

ホームページ上に情報開示され適切に法令遵守されている。個人情報の管理、方針の公開など適切に実践されている。IT 化による学生の成績管理、個人情報が含まれる資料などの共有化、またデータの適正な管理、運用など適切に対策がとられている。

学生が実習中に得た情報については、マニュアルなど作成して徹底した管理が必要である。

個人情報管理、守秘義務については、学生教育が必要である。個人情報管理の徹底、情報漏洩や不正利用を防止するための個人情報管理者の育成、定期的な情報セキュリティー対策の実施が必要と感じる。学生に守秘義務を教育していることは良いことと感じており、その効果を高めるため、より具体的なケーススタディや実践例を用いた指導などが必要である。

データ上の個人情報の流失に対する、セキュリティーは万全だと思うが、引き続き注視していくことを期待する。外部からのアクセスに対するセキュリティーもどのようになっているか教えていただくとより安心である。

評価基準 12：社会貢献・地域貢献

適切である

コメント

コロナ禍において、できうる貢献ができています。教員の積極的な働きかけが地域包括支援事業や社会

教育事業で示されている。社会福祉協議会や自治体主催の講座の積極的な受託、学校を開放しての講習会など地域に根ざした活動が認められる。社会貢献、地域貢献が幅広く行えている。

学生が主となり市民講座を開催している。学生にとっても貴重な経験である。継続してほしい。

学院が実施している社会貢献活動は多岐にわたっているが、地域ニーズに合わせた活動の充実を図ることで、より地域社会との密接な関係を築き、地域の福祉施設との連携強化が図れると感じた。また、参加する人が、ある程度限定的な範囲に留まっている場合があるため、参加者の多様化や拡大があるとより効果的と感じた。例えば、SNS などを活用した情報発信、地域の自治体や社会福祉協議会などとの連携強化など。

言語聴覚学科の長期高度人材育成コースの認可は、学生受け入れ、募集の面でも非常に期待できる。コロナ収束後に向けて、更なる地域や社会貢献できるイベントを立案・計画していただきたい。